

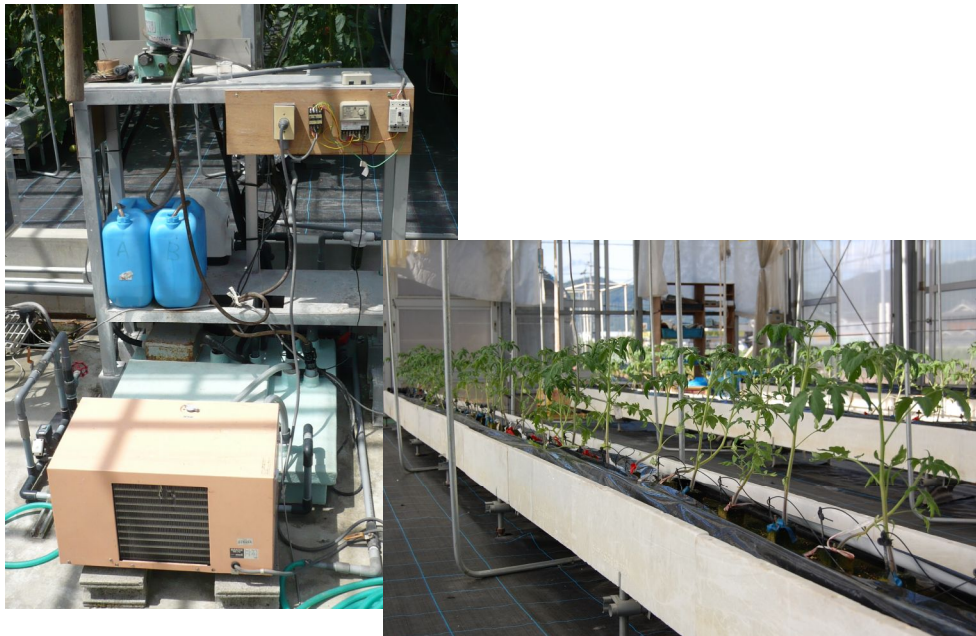
冷却培養液利用によるトマト良質苗生産技術の開発

抑制裁培におけるトマト育苗は、盛夏期に育苗を行うことから苗質が劣化し、生育初期の樹勢低下や初期収量の減少が問題となっています。

このため、苗質の改善を目的に、冷却培養液を用いた育苗の検討を始めました。

20 程度に冷却した培養液を用いて育苗し、育苗培地（4 cm角ロックウールキューブ）の温度を無処理区に比べ5 程度低く保ちながら育苗することにより、草丈で2 cm、葉数で2枚程度生育が促進され、高温による苗生育の抑制を防ぐことができました。また、これらの苗を本ばに展開したところ、無処理区に比べ、収穫開始が10日前後前進することも明らかとなりました。

今後、収量調査を継続し、育苗方法と収穫量との関係等を調査する予定です。



試験に利用した培養液冷却ユニット（左）と定植直後の苗の状態（右）